

ふるさとは今

みやざきょうぜんしき 県指定無形民俗文化財シッカク踊と宮座饗膳式(水上町)

シッカク踊と宮座饗膳式は、福原八幡宮が摂津国福原（現兵庫県神戸市）の地から勧請された時（社伝によると天永2年（西暦1111年）建立）から伝わる例大祭の神事です。昭和46年に福原八幡宮が水上神社に併合されて以降は水上神社の例祭にとり行われています。

宮座饗膳式は拝殿で氏子に膳が振る舞われます。氏子たちは決まった順番に箸をつけていきますが、そのたび献立について悪態をつきます。そのつど神主のらりくらしと言いつきを、給仕役がお神酒を注いでなだめながら膳を食べさせます。この時に悪態が多ければ多いほど、翌年が豊作になると言われています。



今年は10月23日(日)に水上神社(水上町)例祭で行われます。
問い合わせ先：水上まちづくりセンター（☎：0854-89-0023）

そのあと行われるシッカク踊は、水上町郷土芸能保存会が保存・継承活動を行っており、高山小学校愛護少年団の子どもたちにより奉納されます。

12人の子どもたちが狩衣装にたすき掛け、飾りたてた笠をかぶった鮮やかな衣装をまとい、大太鼓、小太鼓、小ざさら、編木（びんざさら）を使って、「シーシー」という合いの手を入れ足で調子を取りながら12番の踊りをおどります。ゆったりとしたテンポが心地よい、芸能化していない古式純朴な田楽が今に伝えられています。ともに貴重な文化として、昭和62年に県の無形民俗文化財に指定されました。

表紙

あの頃 くしじま ～ 檳島(昭和30年)～

表紙の写真は昭和30年代初期の頃の写真です。中央にある飛び込み台(いつまであったのかは定かではありませんが)や水着姿にその頃の様子がうかがえます。

今のように娯楽もあまりない時代、夏となれば海水浴場は多くの人でにぎわったようです。しかし、当時は檳島に行くには沖泊から海に面した険しく狭い遊歩道を歩いて行くか、小浜の船着場(橋の階)から渡し船で行く方法しかありませんでした。

檳島に行く渡し船から見る景色、白い波しぶき、時間にすれば10分もかからない短いコースでしたが檳島に行く楽しみの一つだったようです。

今では、市道檳島線が昭和63年に開通し、車で簡単に行くことができるようになり、魚釣りやキャンプも気軽に楽しめるようになりました。

この夏の思い出づくりに、ぜひ檳島へお越しください。



現在

檳島にはその昔、承久の変(1221年)で隠岐の島に流罪となった後鳥羽上皇が途中、大嵐で漂着し、お世話になったお礼にと古者へ檳をあげたことから檳島となったという言い伝えがあります。

この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行 / 大田市役所総務部まちづくり推進課 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-matidukuri@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>
“おおだ”の定住サイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/>

どがどが 検索